

平成 20 年度再評価対象事業一覧表 (再評価実施後、一定期間(5~10年)が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)
 (対象:平成15年度再評価実施事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	コスト縮減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業課)
再評価時点 H15	寒水川 (寒水川・通瀬川) 広域基幹河川改修事業	事業主体: 県 事業地: 三根町 北茂安町 中原町	流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図る。 (寒水川) 計画流量 160m ³ /s 計画治水安全度 1/50	全体事業費: C=126.8億円 工期: S54~H25 改修延長: L=7,575m 計画流量: (寒水川) 160m ³ /s 計画治水安全度: (寒水川) 1/50 事業内容: 掘削・築堤 護岸、排水機場1箇所、 橋梁15基、堰13基	・寒水川については、排水機場(Q=18m ³ /s)についてはH10に完成している。現在、放水路区間の改修を促進しているところである。 ・通瀬川については、町道中津隈・市原線下流までは、河床掘削を残し改修が概成している。用地は、全川ほぼ買収済。 ・橋梁8基が完成 (H14末進捗率 48%) (事業費ベース) (年平均進捗率 2.0%)	(過去の災害実績) H2.7 浸水戸数 454戸 農地浸水面積 720ha 平成13年7月の梅雨前線豪雨で破堤し、家屋浸水6戸、田畑の浸水59haなど、甚大な被害を受けたため、抜本的治水対策として、放水路区間の早期完了が必要である。 (地域の状況) 流域内の江口地区にて、宅地開発が行われている。 また、圃場整備がS58~H10に行われた。	事業採択時と比較し、費用対効果の要因の大きな変化はない。 現在(B/C) 1.6	(コスト縮減策) 土工事において建設発生土の利用促進を行う等によりコスト縮減を図る。	再評価実施後5年が経過	継続
現時点 H20	事業地: みやき町			前回評価時より事業費が増額となった。 全体事業費: C=151億円 工期: S54~H35 改修延長: L=7,575m 計画流量: 160m ³ /s 計画治水安全度: 1/50 事業内容: 掘削・築堤 護岸、排水機場1箇所、 橋梁15基、堰13基	排水機場(Q=18m ³ /s)についてはH10に完成している。現在、H21年度完成を目指し、放水路区間の改修を促進しているところである。 用地買収は、西尾橋下流についてはほぼ買収済。 ・橋梁8基が完成 (H19末進捗率 60%) (事業費ベース) (年平均進捗率 2.1%)	(過去の災害実績) 同上 (地域の状況) 流域内の江口地区にて、宅地開発が行われている。 また、圃場整備がS58~H10に行われた。	最新のマニュアルに基づき、費用対効果(B/C)を算出した。 一般資産被害額 農作物被害額 公共土木施設等被害額等 B=63,386百万円 総費用額 C=19,954百万円 現在(B/C) 3.2	(コスト縮減策) ラバー堰の積極的採用を行う等によりコスト縮減を図る。 土工事において建設発生土の利用促進を行う等によりコスト縮減を図る。	再々評価実施後5年が経過	平成2年、平成13年等の洪水被害を軽減するため、流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、地域住民の安心・安全を確保するためには、当事業の継続が必要である。
理由等				・鋼材単価の高騰による工事費の増。 ・河川構造物の耐震検討に関する新たな指針による構造物の検討費用及び工事費の増。 ・当初計画より現地発生土の現場内利用を予定していたが、発生土の一部について改良が必要となったことにより工事費が増となった。 ・行財政改革等の予算縮減を受け年度事業費が減となったことによる工期延長。						

